新変額個人年金保険GF

投資型年金Ⅱ
2014年度（平成26年度）特別勘定の現況

●投資環境（2014年度）

日本株式市場

日経平均株価は、期初14,870円で始まりました。4月に5%から8%への消費増税が実施された直後の金融政策決定会合での現状維持決定を受け、4月中旬に同株価は今年度の安値となる13,885円まで下落しました。10月末に日銀が追加金融緩和を決定したことで外国為替市場において円安が進行し、輸出関連の大型株を中心に同株価は上昇し、12月には2007年7月以来の18,000円台まで到達しました。1月にはECBが量的緩和を3月に実施することを決定したことを好感し、米欧株価が上昇したこと等を受け、3月に日経平均株価は、2000年5月以来の今年度高値19,778円まで上昇しましたが、その後やや戻し期末は19,206円で終了しました。

外国株式市場

米国のS&P500は、期初1,873.96で始まりました。4月上旬の米企業減益決算等により、同指数は1,814.36まで一時下落しました。10月中旬にかけて世界経済の減速懸念、米国金融政策の量的緩和終了やエボラ出血熱の感染者拡大等によりリスク回避的な流れを受けて、同指数は一時1,820程度まで下落しました。12月に原油価格の急落、ロシアルーブルの急落、1月にスイスフランの急騰等を受けリスク回避的に同指数が2,000前後まで下落する局面がありましたが、その後堅調に推移し同指数は2月に史上最高値となる2,119.59をつけました。期末は若干値を戻しS&P500は2,067.89で終了しました。
また、英国のFTSE100は、期初6,598.37で始まりました。10月中旬にかけて世界経済の減速懸念等によりリスク回避的な流れを受けて、同指数は一時6,072.68まで下落しました。その後は、徐々に上値を切り上げつつ堅調に推移し、同指数は3月には史上最高値となる7,065.08にまで上昇しました。その後、やや反落しFTSE100は6,773.04で終了しました。

日本債券市場

10年国債利回りは、期初0.64%で始まり、日銀の金融緩和策の買入継続等による国債の良好な需給環境を背景に、0.5%前後まで徐々に低下しました。9月には米国の早期利上げ観測や日本の株価上昇等に伴い、同利回りは0.58%程度まで上昇しました。10月末に日銀が追加金融緩和を決定すると、同利回りは0.44%程度まで低下しました。その後発表された2014年7-9月期GDPマイナス成長、消費増税の実施時期を2017年4月に確定すると安倍政権より意思表示があったことや日銀の追加緩和の効果等を受け、同利回りは1月に0.20%程度まで低下しました。1月下旬の金融政策決定会合で追加緩和策が見送られると同利回りは上昇に転じ、その後は0.30～0.50%程度の幅で推移しました。10年物国債利回りは0.40%で期末を迎えました。

外国債券市場

米国10年債利回りは、期初2.81%で始まりました。10月中旬にかけて、世界景気の減速懸念、エボラ熱感染者拡大、米国量的緩和終了等を受けたリスク回避的な動きから、同利回りは一時2.2%程度まで低下しました。また、年度後半に原油価格の下落が顕著となる中、インフレ率の低下、新興国経済の需要鈍化の観測等を背景に、同利回りは1月に1.64%まで低下しました。2～3月にかけては、米国労働市場の回復等を背景とする2015年内の利上観測等から2.2%程度まで同利回りが上昇する局面がありましたが、米国10年国債利回りは1.92%で期末を迎えました。
また、ドイツ10年国債利回りは、期初1.56%で始まりました。その後、ECBによる追加緩和期待やデフレ懸念等を背景にほぼ年度を通じて同利回りの低下局面が継続しました。3月にはECBによる量的緩和導入が決定され、0.16%程度まで一段と低下しましたが、ドイツ10年国債利回りは、0.18%で期末を迎えました。

外国為替市場

ドル円相場は、期初1米ドル＝103.07円で始まりました。4月～8月までは1米ドル＝100～105円程度の狭い幅での動きが継続しましたが、9月にはGPIF改革による海外投資拡大等への期待から1米ドル＝110円程度まで円安・ドル高が進行しました。10月下旬～月末にかけFOMCにおける米国量的緩和終了決定、日銀による追加緩和の決定等により、円安・ドル高が一段と進行し、12月には1米ドル＝122円近辺にまで到達しました。その後、3月まで1米ドル＝115～122円程度の幅で一進一退の動きが継続し、1米ドル＝119.95円で期末を迎えました。
また、ユーロ円相場は、期初1ユーロ＝141.96円で始まりました。日銀の追加緩和決定による円安・ユーロ高が進行し、12月には1ユーロ＝149.78円に到達しました。その後、ECB量的緩和導入決定等によりユーロは下落基調を強め、3月には一時1ユーロ＝126.91円まで円高・ユーロ安水準に到達し、1ユーロ＝128.68円で期末を迎えました。

●運用実績の推移および運用方針

①当期の運用実績の推移	各特別勘定の運用状況をご参照ください。
②当期の運用方針	当社は、各特別勘定の運用方針に従い、特別勘定の運用を実施しました。
③今後の運用方針	当社は、今後とも、各特別勘定の運用方針および管理運営方針に従い、特別勘定の運用を行う方針です。

当社は2014年度決算（決算日：2015年3月31日）を行いました。当資料は2014年度の運用状況をご報告するものです。
4ページ以降は特別勘定レポート（2015年3月末現在）からの抜粋となります。最新の運用状況は当社ホームページにてご確認いただけます。

●特別勘定資産の内訳（2014年度末）

（単位：百万円）

区分	金額					
	日本株式MA	日本株式中小型MA	日本株式成長型FA	世界株式AA	世界債券ヘッジ型MA	世界債券フリー型MA
現預金・コールローン	39	56	16	50	4	21
有価証券	673	1,003	336	960	86	428
公社債	－	－	－	－	－	－
株式	－	－	－	－	－	－
外国証券	－	－	－	－	－	－
公社債	－	－	－	－	－	－
株式等	－	－	－	－	－	－
その他の証券	673	1,003	336	960	86	428
貸付金	－	－	－	－	－	－
その他	－	－	11	0	7	15
貸倒引当金	－	－	－	－	－	－
合計	712	1,060	364	1,010	98	466

※単位未満切捨て

（単位：百万円）

区分	金額			
	グローバル・バランスGA	世界バランスFA	米ドル・マネーMA	マネー・プールA
現預金・コールローン	14	28	10	294
有価証券	309	534	292	－
公社債	－	－	－	－
株式	－	－	－	－
外国証券	－	－	292	－
公社債	－	－	－	－
株式等	－	－	292	－
その他の証券	309	534	－	－
貸付金	－	－	－	－
その他	－	－	0	5
貸倒引当金	－	－	－	－
合計	324	563	302	299

※単位未満切捨て

●特別勘定の運用収支状況（2014年度）

（単位：百万円）

区分	金額					
	日本株式MA	日本株式中小型MA	日本株式成長型FA	世界株式AA	世界債券ヘッジ型MA	世界債券フリー型MA
利息配当金等収入	20	93	26	113	2	34
有価証券売却益	－	－	－	－	－	－
有価証券償還益	－	－	－	－	－	－
有価証券評価益	214	487	187	585	18	186
為替差益	－	－	－	－	－	－
金融派生商品収益	－	－	－	－	－	－
その他の収益	－	－	－	－	－	－
有価証券売却損	0	－	－	－	－	－
有価証券償還損	－	－	－	－	－	－
有価証券評価損	54	316	125	498	15	175
為替差損	－	－	－	－	－	－
金融派生商品費用	－	－	－	－	－	－
その他の費用及び損失	－	－	－	－	－	－
収支差額	180	264	87	201	5	45

※単位未満切捨て

（単位：百万円）

区分	金額			
	グローバル・バランスGA	世界バランスFA	米ドル・マネーMA	マネー・プールA
利息配当金等収入	0	27	0	－
有価証券売却益	－	－	2	－
有価証券償還益	－	－	－	－
有価証券評価益	92	241	58	－
為替差益	－	－	－	－
金融派生商品収益	－	－	－	－
その他の収益	－	－	－	－
有価証券売却損	－	－	－	－
有価証券償還損	－	－	－	－
有価証券評価損	65	177	38	－
為替差損	－	－	－	－
金融派生商品費用	－	－	－	－
その他の費用及び損失	－	－	－	－
収支差額	27	91	23	－

※単位未満切捨て

●有価証券の売買状況(2014年度)

(単位：千口、千円)

特別勘定の名称	銘柄	買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
日本株式MA	ブラックロック日本株式オープン	21,904	20,100	238,986	203,155
日本株式中小型MA	ブラックロック日本小型株オープン	58,538	239,700	113,265	375,969
日本株式成長型FA	フィデリティ・日本成長株・ファンド	5,972	10,400	67,578	88,047
世界株式AA	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ（年金向け）	74,903	104,000	311,188	281,366
世界債券ヘッジ型MA	ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジあり）	3,026	3,239	23,960	22,983
世界債券フリー型MA	ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジなし）	5,122	5,957	145,818	139,012
グローバル・バランスGA	ダ・ヴィンチVA	−	−	3,560	4,577
世界バランスFA	フィデリティ・バランス・ファンド	60,648	85,500	95,037	112,780
米ドル・マネーMA	ブラックロック・グローバル・インベストメント・シリーズ−スーパー・マネー・マーケット・ファンド	1,205	144,204	179	16,691
マネー・プールA	−	−	−	−	−

※単位未満切捨て

●保有契約高(2014年度末)

(単位：件、百万円)

項目	件数	金額
新変額個人年金保険GF　投資型年金Ⅱ	146	5,194

※単位未満切捨て

●特別勘定の内容

特別勘定の名称	銘柄	運用会社	資産運用関係費用(年率)*
日本株式MA	ブラックロック日本株式オープン	ブラックロック・ジャパン	1.6524%（税込）程度
日本株式中小型MA	ブラックロック日本小型株オープン	ブラックロック・ジャパン	1.7604%（税込）程度
日本株式成長型FA	フィデリティ・日本成長株・ファンド	フィデリティ投信	1.6524%（税込）程度
世界株式AA	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ（年金向け）	アライアンス・バーンスタイン	1.8144%（税込）程度
世界債券ヘッジ型MA	ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジあり）	ブラックロック・ジャパン	1.3824%（税込）程度
世界債券フリー型MA	ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジなし）	ブラックロック・ジャパン	1.3824%（税込）程度
グローバル・バランスGA	ダ・ヴィンチVA	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	0.972%（税込）程度
世界バランスFA	フィデリティ・バランス・ファンド	フィデリティ投信	1.6524%（税込）程度
米ドル・マネーMA	ブラックロック・グローバル・インベストメント・シリーズ−スーパー・マネー・マーケット・ファンド	ブラックロック・ファイナンシャル・マネジメント・インク	0.75%程度
マネー・プールA	特に定めません	特に定めません	0.06%以内 金利情勢、投資対象とする短期金融商品によって変動します。

＊資産運用関係費用は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、監査報酬、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税の税金等がかかりますが、費用の発生前に金額や計算方法を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は投資信託の純資産総額より差し引かれます。したがって、ご契約者はこれらの費用を間接的に負担することになります。なお、資産運用関係費用は、運用手法の変更等により将来変更される可能性があります。

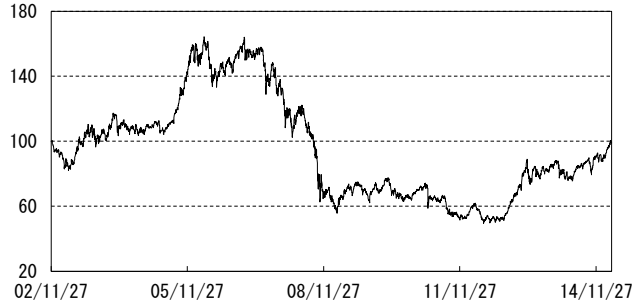
日本株式MA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2002年11月27日
【資産分類】日本株式
【運用方針】
日本の株式の中から、企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄に分散投資することにより、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
【投資対象となる投資信託】
ブラックロック日本株式オープン

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	61.34	－
2014年3月31日	79.54	−2.45%
4月30日	77.19	−2.95%
5月31日	79.14	2.52%
6月30日	83.46	5.46%
7月31日	86.20	3.29%
8月31日	86.45	0.29%
9月30日	89.81	3.88%
10月31日	85.05	−5.30%
11月30日	90.21	6.07%
12月31日	91.78	1.74%
2015年 1月31日	90.95	−0.91%
2月28日	96.24	5.82%
3月31日	99.32	3.21%
3ヶ月変化率		8.22%
6ヶ月変化率		10.59%
1年変化率		24.87%
3年変化率		61.92%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	39	5.6%
有価証券等		
ブラックロック日本株式オープン	673	94.4%
その他	－	－
資産合計	712	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	712	100.0%

投資対象となる投資信託について

ブラックロック日本株式オープンの基本情報

【運用会社】ブラックロック・ジャパン
【運用対象】日本株式
【ベンチマーク】TOPIX
【投資の基本姿勢】
①マーケットの非効率性に着眼したボトムアップ運用
「市場に見られる非効率性に着眼し、アクティブ運用によりベンチマークを上回ることが可能」、「ボトムアップ・リサーチに基づく適切な銘柄選択を行うことによって、ベンチマーク及び業界平均を上回る運用成績をあげることが可能」の２点を運用哲学としている。

②スクリーニング
７つのカテゴリー（経営力、競争優位性、業界の魅力度、短期的アーニングス・サプライズ、長期的アーニングス・サプライズ、一株利益の持続的成長、バリュエーション）により各銘柄、各セクターを５段階評価し、TOPIXにおけるウェイト、バーラによるリスク分析をもとにポートフォリオを構築。
③チーム運用
スクリーニングにおける５段階評価はチーム全員参加のミーティングにより決定されるため、ポートフォリオのリスクはチームレベルでコントロールされる。

運用状況

■市場別構成比（2015.3末現在）

市場	構成比
東証１部	96.7%
マザーズ	0.9%
JASDAQ	0.8%
キャッシュ等	1.7%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■上位10業種構成比（2015.3末現在）

	業種	構成比
1	輸送用機器	14.1%
2	電気機器	13.3%
3	情報・通信業	10.8%
4	小売業	8.9%
5	医薬品	6.4%
6	銀行業	6.1%
7	不動産業	5.7%
8	陸運業	5.5%
9	食料品	4.4%
10	化学	3.7%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄（2015.3末現在）

	銘柄名	業種	構成比
1	トヨタ自動車	輸送用機器	6.1%
2	キヤノン	電気機器	2.6%
3	塩野義製薬	医薬品	2.5%
4	京浜急行	陸運業	2.4%
5	本田技研	輸送用機器	2.2%
6	電源開発	電気・ガス業	2.2%
7	ユニプレス	輸送用機器	2.1%
8	ＡＯＫＩホールディングス	小売業	2.0%
9	ヤマハ発動機	輸送用機器	1.9%
10	テクノプロ・ホールディング	サービス業	1.9%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合　（銘柄数　76）

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

日本株式中小型MA (2015年3月末現在)

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2002年11月27日
【資産分類】日本株式
【運用方針】
日本の株式の中から、成長性、収益性に富む中小型株を中心に運用することにより、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
【投資対象となる投資信託】
ブラックロック日本小型株オープン

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	86.29	−
2014年3月31日	138.70	−1.74%
4月30日	134.84	−2.78%
5月31日	138.97	3.06%
6月30日	146.89	5.70%
7月31日	152.94	4.12%
8月31日	153.06	0.08%
9月30日	156.91	2.52%
10月31日	149.96	−4.43%
11月30日	158.89	5.95%
12月31日	163.97	3.20%
2015年 1月31日	162.53	−0.88%
2月28日	169.79	4.47%
3月31日	174.88	3.00%
3ヶ月変化率		6.65%
6ヶ月変化率		11.45%
1年変化率		26.08%
3年変化率		102.66%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

■特別勘定 純資産総額の内訳

(単位：百万円)

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	56	5.3%
有価証券等		
ブラックロック日本小型株オープン	1,003	94.7%
その他	−	−
資産合計	1,060	100.0%
負債合計	−	−
純資産総額	1,060	100.0%

投資対象となる投資信託について

ブラックロック日本小型株オープンの基本情報

【運用会社】ブラックロック・ジャパン
【運用対象】日本株式
【ベンチマーク】RUSSELL/NOMURA Mid-Small Cap インデックス
【投資の基本姿勢】
①グローバルな視野に立ち、海外の運用チームと情報を共有しながら、社会・経済・産業における世界的なトレンドに基づいた中長期的な投資テーマを見出します。
②企業訪問に基づいたボトムアップ・リサーチによる銘柄選択を行います。
③銘柄選択には、経営者の質や企業の成長力、競争力を重視します。
④厳選した50～80銘柄程度に分散投資を行い、原則として長期間保有する運用を行います。また、ファンドが保有している企業のリサーチを継続的に行います。
⑤運用チームのファンドマネジャーは全員アナリストを兼任しており、ファンドマネジャー自身が企業訪問や経営トップと直接面談等を行うことにより、財務諸表等の資料による分析だけにとどまらない、独自の徹底したリサーチを行います。リサーチ結果はチームとして検証したうえで銘柄選択します。チームによる徹底的な議論に基づく組織的な運用を行います。

運用状況

■市場別組入比率 (2015.3末現在)

市場	構成比
東証１部	89.9%
JASDAQ	2.8%
東証２部	2.3%
マザーズ	1.4%
キャッシュ等	3.6%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10業種 (2015.3末現在)

	業種	構成比
1	小売業	10.0%
2	電気機器	9.3%
3	化学	8.3%
4	情報・通信業	8.1%
5	機械	6.2%
6	銀行業	5.3%
7	医薬品	5.1%
8	サービス業	4.9%
9	輸送用機器	4.5%
10	陸運業	4.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄 (2015.3末現在)

	銘柄名	業種	構成比
1	塩野義製薬	医薬品	2.0%
2	日本カーボン	ガラス・土石製品	1.6%
3	ヤマハ発動機	輸送用機器	1.6%
4	京浜急行	陸運業	1.6%
5	スクウェア・エニックス・ＨＤ	情報・通信業	1.5%
6	テクノプロ・ホールディング	サービス業	1.5%
7	すかいらーく	小売業	1.4%
8	サイバーエージェント	サービス業	1.4%
9	帝　人	繊維製品	1.4%
10	ＩＴホールディングス	情報・通信業	1.4%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合　(銘柄数　127)

・当資料は、投資型年金Ⅱ(新変額個人年金保険GF)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ(新変額個人年金保険GF)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

日本株式成長型FA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2002年12月2日
【資産分類】日本株式
【運用方針】
日本の株式の中で、将来高い成長が期待できる銘柄を厳選して分散投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。
【投資対象となる投資信託】
フィデリティ・日本成長株・ファンド

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	94.66	－
2014年3月31日	129.20	−2.50%
4月30日	125.88	−2.57%
5月31日	129.33	2.74%
6月30日	134.25	3.80%
7月31日	139.27	3.74%
8月31日	136.83	−1.76%
9月30日	143.21	4.67%
10月31日	137.07	−4.29%
11月30日	149.10	8.78%
12月31日	150.62	1.01%
2015年 1月31日	147.84	−1.84%
2月28日	156.94	6.15%
3月31日	160.85	2.50%
3ヶ月変化率		6.80%
6ヶ月変化率		12.32%
1年変化率		24.50%
3年変化率		69.91%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	16	4.6%
有価証券等		
フィデリティ・日本成長株・ファンド	336	94.8%
その他	2	0.6%
資産合計	354	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	354	100.0%

投資対象となる投資信託について

フィデリティ・日本成長株・ファンドの基本情報

【運用会社】フィデリティ投信
【運用対象】日本株式
【ベンチマーク】TOPIX（配当金込）
【投資の基本姿勢】
①個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。
●一般的に成長企業は、市場における高い競争力がありますので、市場占有率や価格競争力等において優位な状態にあります。
●高い競争力を戦略的に活用し、経営効率を高め、株主利益の拡大に努めている企業に注目します。
●成長性については、利益または収益で計られる場合が多く、キャッシュフローが潤沢であることも注目点としてあげられます。
②個別企業分析にあたっては、フィデリティ・グループの日本および世界主要金融拠点のアナリストによる企業調査結果を活かし、ボートフォリオ・マネジャーによる「ボトム・アップ・アプローチ」を重視した運用を行います。
③ポートフォリオ構築にあたっては、分散投資を基本としリスク分散を図ります。

運用状況

■市場別構成比（2015.3末現在）

市場	構成比
東証１部	96.2%
東証２部	0.7%
ジャスダック	1.0%
その他市場	0.6%
現金･その他＊	1.5%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
＊「フィデリティ･円キャッシュ･ファンド」を含む場合があります。

■上位5業種構成比（2015.3末現在）

	業種	構成比
1	電気機器	20.8%
2	機械	10.3%
3	輸送用機器	9.3%
4	サービス業	5.4%
5	化学	5.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄（2015.3末現在）

	銘柄名	業種	構成比
1	ミスミグループ本社	卸売業	3.7%
2	ソフトバンク	情報・通信業	3.1%
3	日立製作所	電気機器	2.7%
4	マキタ	機械	2.5%
5	日本電産	電気機器	2.3%
6	東レ	繊維製品	2.2%
7	横河電機	電気機器	2.1%
8	シマノ	輸送用機器	2.0%
9	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	2.0%
10	オリックス	その他金融業	1.9%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合　（銘柄数　267）

【運用会社による投資信託へのコメント】（2015.3末現在）

当月の東京株式市場は、景気や企業業績に対する楽観的な見方が広がり、利食いの売りをこなしつつ続伸しました。

当月の日本株ですが、前月までの急騰を受けて高値警戒感が強かった上旬は、売り買いが交錯して揉み合う推移となりました。月初に史上最高値を更新した米国株が、早期利上げ実施への警戒感やドル高などによる業績悪化懸念から反落に転じたことも、日本株にとっての重石となりました。しかし中旬に入り、春闘における賃上げ交渉が各社とも順調に進んでいると報道されると、景気や企業業績の持続的な拡大につながるとの見方から、日本株は再び動意づきました。さらに、株主対応に消極的な企業の代表ともいえるファナックが、前向きな姿勢に転じると伝わったことで、日本企業の変化を示す象徴的事例として好感され、相場全体の上昇に弾みがつきました。月末近くになって米国株が再び調整、また中東にて地政学的リスクが高まったこともあり、日本株も小反落を強いられましたが、高値圏にて当月を終えました。

月間の騰落率は、TOPIX（配当金込）が＋2.06%、日経平均株価は＋2.18%でした。

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界株式AA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2002年11月27日
【資産分類】世界株式
【運用方針】
世界各国の株式の中から成長の可能性が高い「産業セクター」を選定し、その中から成長性の高いと思われる銘柄に分散投資することにより、長期的に信託財産の成長を目指します。原則として為替ヘッジは行いません。
【対象投資信託】
アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ（年金向け）

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	50	5.0%
有価証券等		
アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ(年金向け)	960	95.0%
その他	－	－
資産合計	1,010	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	1,010	100.0%

■ユニットプライスの推移

	ユニットプライス	前月比	円／ドル
2012年3月31日	81.97	－	82.19
2014年3月31日	111.40	−0.84%	102.92
4月30日	112.39	0.89%	102.61
5月31日	114.34	1.74%	101.66
6月30日	116.18	1.61%	101.36
7月31日	116.32	0.12%	102.85
8月31日	118.24	1.65%	103.74
9月30日	121.82	3.03%	109.45
10月31日	118.98	−2.33%	109.34
11月30日	132.36	11.24%	118.23
12月31日	133.78	1.07%	120.55
2015年 1月31日	126.29	−5.59%	118.25
2月28日	134.18	6.24%	119.27
3月31日	132.36	−1.35%	120.17

3ヶ月変化率	−1.06%
6ヶ月変化率	8.65%
1年変化率	18.82%
3年変化率	61.47%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ（年金向け）の基本情報

【運用会社】アライアンス・バーンスタイン
【運用対象】日本を含む世界主要国の株式
【ベンチマーク】MSCI-WORLD（円換算）
【投資の基本姿勢】
①6人のリサーチアナリストが各セクターファンドを運用し、シニアアナリストがファンド全体のパフォーマンスに責任を持ちます。各アナリストは下記のポイントから銘柄を選択します。
●グローバルベースで最も速く成長する産業から最も速く成長する企業を探し出します。
●成長産業間で分散投資を行います。
●アナリストのレーティング「1」（Buy）の企業に集中投資します。
●レーティング「1」（Buy）の企業は平均以上の成長が見込める業界のリーディングカンパニーです。
●それは、通常、先進国の大型株が中心となります。
②セクター間のアセットアロケーションは四半期に一度以上シニアアナリストが各アナリストの意見を参考に、各セクターのファンダメンタルズ、バリュエーション、モメンタムを分析しながら決定します。

運用状況

■株式国別配分上位（2015.3末現在）

国名	組入比率
アメリカ	56.0%
イギリス	9.4%
日本	8.0%
ドイツ	5.4%
フランス	4.5%
スイス	4.0%
カナダ	2.0%
オーストラリア	1.9%
イタリア	1.5%
香港	1.3%

※実質組入比率を記載しています。

■業種別内訳　（2015.3末現在）

業種	組入比率
金融	20.4%
ヘルスケア	15.4%
一般消費財・サービス	13.6%
資本財・サービス	12.0%
情報技術	12.0%
生活必需品	11.5%
エネルギー	7.0%
電気通信サービス	3.2%
素材	3.2%
公益事業	1.3%

※実質組入比率を記載しています。

■株式組入上位10銘柄　（2015.3末現在）

	銘柄	国名	組入比率
1	東芝	日本	1.5%
2	ユナイテッドヘルス・グループ	アメリカ	1.5%
3	アップル	アメリカ	1.4%
4	ウェルズ・ファーゴ	アメリカ	1.4%
5	AIAグループ	香港	1.3%
6	ブリティッシュ・アメリカン・タバコ	イギリス	1.3%
7	アンハイザー・ブッシュ・インベブ	ベルギー	1.2%
8	エクソン・モービル	アメリカ	1.2%
9	フォルクスワーゲン	ドイツ	1.2%
10	デルファイ・オートモーティブ	イギリス	1.1%

※実質組入比率を記載しています。　（銘柄数　234）

【運用会社による投資信託へのコメント】（2015.3末現在）

3月の世界の株式市場は、まちまちの展開となりました。米国株式市場は、月半ばまでは、良好な雇用統計などを背景とした米連邦準備理事会（FRB)による早期利上げ懸念の浮上や、為替市場での米ドル高の進行などを受けて軟調に推移しました。その後、企業の活発なM&A活動の報道や、FRBが利上げを急がない姿勢を示唆したことなどから反発した局面もあったものの、月末にかけて経済指標の悪化などを背景として軟調に推移しました。欧州株式市場は、企業の好調な決算発表やユーロ安の影響で輸出関連企業を中心に良好な業績見通しが期待されることなどから、おおむね堅調に推移しました。日本株式市場は、中旬までは、為替の円安進行や企業業績の改善期待などを背景として堅調に推移しました。その後、月末にかけて、為替が円高に転じたことや米国の軟調な経済指標などが嫌気されて下落しました。

主要市場の騰落率（前月末比、現地通貨建て）は次のとおりです。ダウ平均（米）：−1.3%、S&P500(米）：−1.2%、ナスダック総合指数（米）：−0.8%、FT100(英)：−0.8%、DAX(独)：+6.7%、CAC40(仏)：+3.5%、日経平均：+2.2%、TOPIX：+1.3%。円ドル・レートは円安ドル高となり3月31日の基準価額の算定に使用するレートは1ドル＝120円17銭（2月27日：119円27銭）となりました。

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界債券ヘッジ型MA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

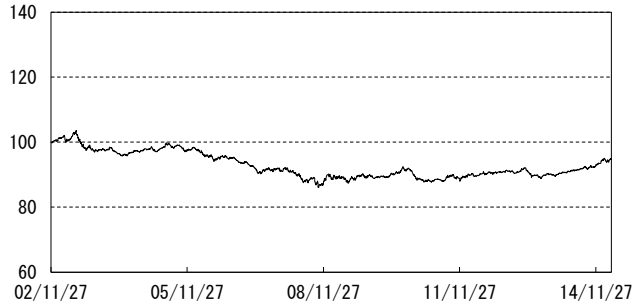
【特別勘定の設定日】2002年11月27日
【資産分類】世界債券
【運用方針】
日本を含む世界主要国の国債等（国債、政府機関債、国際機関債）を中心に公社債に投資を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。投資する公社債は、取得時において投資適格または同等の信用力を有するものとします。原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
【投資対象となる投資信託】
ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジあり）

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	4	5.0%
有価証券等 ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジあり）	86	95.0%
その他	－	－
資産合計	90	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	90	100.0%

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	89.71	－
2014年3月31日	90.81	0.15%
4月30日	91.05	0.26%
5月31日	91.52	0.52%
6月30日	91.67	0.16%
7月31日	91.98	0.34%
8月31日	92.57	0.64%
9月30日	92.09	−0.52%
10月31日	92.28	0.20%
11月30日	93.02	0.80%
12月31日	93.50	0.52%
2015年 1月31日	94.90	1.50%
2月28日	94.44	−0.48%
3月31日	94.73	0.30%
3ヶ月変化率		1.32%
6ヶ月変化率		2.86%
1年変化率		4.32%
3年変化率		5.60%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジあり）の基本情報

【運用会社】ブラックロック・ジャパン
【運用対象】日本を含む世界主要国の信用力の高い公社債
【ベンチマーク】シティ世界国債インデックス（円ヘッジ 円ベース）
【投資の基本姿勢】
①金利・為替についての相場観に過度に依存しない投資機会、計算可能な相対価値（「レラティブ・バリュー」）に基づく投資機会を発見し、多種多様な投資機会を積み重ねていくことにより、安定した超過収益をあげることが可能であると考え、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。
②外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

運用状況

■通貨別構成比率（2015.3末現在）

	ベンチマーク ウェイト	ポートフォリオ 債券ウェイト	ポートフォリオ 通貨ウェイト
米国・ドル	32.7%	24.4%	0.3%
カナダ・ドル	1.7%	1.7%	0.2%
メキシコ・ペソ	0.8%	1.6%	0.0%
南アフリカ・ランド	0.4%	1.0%	0.0%
日本・円	22.5%	18.5%	98.5%
オーストラリア・ドル	1.4%	6.4%	0.2%
シンガポール・ドル	0.3%	－%	0.0%
マレーシア・リンギット	0.4%	－%	－%
ユーロ	31.6%	23.2%	0.4%
英国・ポンド	6.4%	5.7%	0.2%
デンマーク・クローネ	0.6%	0.5%	0.1%
スウェーデン・クローナ	0.4%	0.9%	0.0%
スイス・フラン	0.2%	0.4%	－%
ポーランド・ズロチ	0.5%	0.3%	0.1%
ノルウェー・クローネ	0.2%	0.7%	0.0%
国際機関		0.6%	－%
キャッシュ等		14.1%	－%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※ベンチマークのユーロ部分は、ユーロ加盟国のウェイトの合計です。
※ベンチマークはシティ世界国債インデックス2015年4月の構成比率
※為替ヘッジが基本なので、為替は「日本・円」100%がベンチマークとなります。
※為替のポートフォリオの「日本・円」は、キャッシュ等を含みます。
※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄（2015.3末現在）

	銘柄名	利率	償還年月日	構成比
1	日本国債	1.000	2021/9/20	8.7%
2	日本国債	1.800	2031/9/20	4.3%
3	日本国債	2.100	2027/12/20	3.3%
4	イタリア国債	4.750	2044/9/1	1.7%
5	日本国債	1.400	2020/3/20	1.6%
6	フランス国債	4.500	2041/4/25	1.6%
7	フランス国債	1.750	2023/5/25	1.6%
8	スペイン国債	3.250	2016/4/30	1.5%
9	フランス国債	4.250	2023/10/25	1.5%
10	ドイツ国債	1.750	2024/2/15	1.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
（銘柄数　165）

修正デュレーション＝平均6.98年（ベンチマーク＝同7.36年）

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界債券フリー型MA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2002年11月27日
【資産分類】世界債券
【運用方針】
日本を含む世界主要国の国債等（国債、政府機関債、国際機関債）を中心に公社債に投資を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。投資する公社債は、取得時において投資適格または同等の信用力を有するものとします。原則として為替ヘッジは行いません。
【投資対象となる投資信託】
ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジなし）

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	21	4.7%
有価証券等 ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジなし）	428	95.3%
その他	－	－
資産合計	450	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	450	100.0%

■ユニットプライスの推移

（円／ドルの為替レートは、7ページに掲載しています）

	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	91.54	－
2014年3月31日	108.75	0.16%
4月30日	109.32	0.53%
5月31日	109.12	−0.19%
6月30日	109.39	0.25%
7月31日	109.56	0.15%
8月31日	110.82	1.15%
9月30日	112.64	1.65%
10月31日	112.34	−0.27%
11月30日	119.07	5.99%
12月31日	120.51	1.21%
2015年 1月31日	117.13	−2.80%
2月28日	117.90	0.65%
3月31日	116.39	−1.28%
3ヶ月変化率		−3.42%
6ヶ月変化率		3.33%
1年変化率		7.03%
3年変化率		27.15%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

ブラックロック・ワールド・ボンド・オープン（為替ヘッジなし）の基本情報

【運用会社】ブラックロック・ジャパン
【運用対象】日本を含む世界主要国の信用力の高い公社債
【ベンチマーク】シティ世界国債インデックス（円ベース）
【投資の基本姿勢】
①金利・為替についての相場観に過度に依存しない投資機会、計算可能な相対価値（「レラティブ・バリュー」）に基づく投資機会を発見し、多種多様な投資機会を積み重ねていくことにより、安定した超過収益をあげることが可能であると考え、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。
②外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

運用状況

■通貨別構成比率（2015.3末現在）

	ベンチマーク ウェイト	ポートフォリオ 債券ウェイト	ポートフォリオ 通貨ウェイト
米国・ドル	32.7%	24.7%	32.2%
カナダ・ドル	1.7%	3.1%	1.9%
メキシコ・ペソ	0.8%	1.7%	1.0%
南アフリカ・ランド	0.4%	1.1%	0.5%
日本・円	22.5%	19.7%	21.4%
オーストラリア・ドル	1.4%	6.3%	1.5%
シンガポール・ドル	0.3%	−%	0.8%
マレーシア・リンギット	0.4%	−%	−%
ユーロ	31.6%	21.5%	31.8%
英国・ポンド	6.4%	6.2%	6.5%
デンマーク・クローネ	0.6%	0.7%	0.7%
スウェーデン・クローナ	0.4%	1.1%	0.5%
スイス・フラン	0.2%	0.4%	0.4%
ポーランド・ズロチ	0.5%	0.3%	0.5%
ノルウェー・クローネ	0.2%	1.0%	0.3%
国際機関		0.8%	−%
キャッシュ等		11.6%	−%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※ベンチマークのユーロ部分は、ユーロ加盟国のウェイトの合計です。
※ベンチマークはシティ世界国債インデックス2015年4月の構成比率
※為替のポートフォリオの「日本・円」は、キャッシュ等を含みます。
※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄（2015.3末現在）

	銘柄名	利率	償還年月日	構成比
1	日本国債	1.000	2021/9/20	8.5%
2	日本国債	1.800	2031/9/20	5.1%
3	日本国債	2.100	2027/12/20	3.7%
4	日本国債	1.100	2020/6/20	3.3%
5	フランス国債	4.500	2041/4/25	2.2%
6	フランス国債	1.750	2023/5/25	2.2%
7	日本国債	－	2021/3/20	2.0%
8	イタリア国債	4.750	2044/9/1	1.7%
9	スペイン国債	3.250	2016/4/30	1.7%
10	フランス国債	4.250	2023/10/25	1.6%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
（銘柄数　152）

修正デュレーション＝平均7.06年（ベンチマーク＝同7.36年）

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

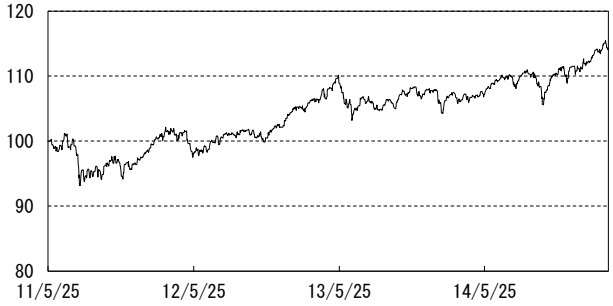
グローバル・バランスGA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2011年5月25日
【資産分類】バランス
【運用方針】
日本を含む世界の株式、債券、円短期金融商品を主要投資対象とし、独自の計量モデルによるアクティブ運用を行い、長期的に安定した運用成果を目指します。原則として為替ヘッジを行います。
【投資対象となる投資信託】
ダ・ヴィンチVA

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	101.59	－
2014年3月31日	106.58	−0.57%
4月30日	106.58	0.00%
5月31日	108.10	1.43%
6月30日	109.40	1.20%
7月31日	109.99	0.53%
8月31日	110.49	0.46%
9月30日	110.00	−0.45%
10月31日	108.53	−1.34%
11月30日	111.09	2.35%
12月31日	111.52	0.39%
2015年 1月31日	111.90	0.34%
2月28日	114.04	1.91%
3月31日	114.31	0.24%
3ヶ月変化率		2.50%
6ヶ月変化率		3.91%
1年変化率		7.25%
3年変化率		12.51%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	14	4.6%
有価証券等 ダ・ヴィンチVA	309	95.4%
その他	－	－
資産合計	324	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	324	100.0%

投資対象となる投資信託について

ダ・ヴィンチVAの基本情報

【運用会社】ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
【運用対象】日本を含む世界各国の株式・債券および円短期金融商品を主要投資対象とします。（株式先物・債券先物取引等を含みます。）
【ベンチマーク】MSCIワールド･インデックス40%＋JPモルガン･ガバメントボンド･インデックス（グローバル）40%（ともに100%為替円ヘッジ、円ベース）＋1カ月円LIBOR20%

【投資の基本姿勢】
①日本を含む先進国を中心とした世界の株式市場、債券市場と円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。
②為替は100%円ヘッジを基本としています。
③資産配分比率、株式・債券・通貨の国別配分比率の変更を行い、収益の向上を目指します。
④コンピュータ・モデルを用いた計量運用を行います。
※市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

運用状況

■資産構成（2015.3末現在）

	構成比
世界株式	44.8%
世界債券	38.0%
円短期金融商品	17.2%
合計	100.0%

【運用会社による投資信託へのコメント】（2015.3末現在）

＜資産クラス間配分＞
資産クラス間配分では、世界株式はモメンタムの観点で評価が高いことから、円短期金融商品に対して強気の見通しとしている。世界債券は円短期金融商品に対して中立の見通しとしている。また、大型株／小型株、一般優良株／テクノロジー株の配分に関しても、ほぼ中立の見通しとしている。
＜株式国別配分＞
株式国別配分においては、日本やドイツに対して強気の見通しとする一方で、アメリカやスイスに対して弱気の見通しとしている。日本やドイツに対しては、バリューとモメンタムの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、アメリカに対しては、バリューとマクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。スイスに対しては、モメンタムとリスクの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。
＜債券国別配分＞
債券国別配分においては、日本やイギリスに対して強気の見通しとする一方で、ドイツやアメリカに対して弱気の見通しとしている。日本やイギリスに対しては、モメンタムの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、ドイツに対しては、モメンタムとマクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。アメリカに対しては、モメンタムの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。
＜通貨配分＞
通貨配分においては、アメリカや日本に対して強気の見通しとする一方で、スイスやカナダに対して弱気の見通しとしている。アメリカに対しては、モメンタムの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。日本に対しては、バリューとマクロの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、スイスに対しては、マクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。カナダに対しては、資金フローの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界バランスFA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2002年12月2日
【資産分類】バランス
【運用方針】
日本を含む世界各国の株式、債券、短期金融商品に分散投資を行い、株式部分については個別企業分析により成長企業を選定し、妥当と思われる株価水準で投資を行い、株式以外の部分については、安定性を重視した運用を行います。
【投資対象となる投資信託】
フィデリティ・バランス・ファンド

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	28	5.1%
有価証券等		
フィデリティ・バランス・ファンド	534	94.9%
その他	－	－
資産合計	563	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	563	100.0%

■ユニットプライスの推移

（円／ドルの為替レートは、7ページに掲載しています）

	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	90.40	－
2014年3月31日	113.92	−1.24%
4月30日	113.75	−0.15%
5月31日	115.06	1.15%
6月30日	116.60	1.34%
7月31日	117.78	1.01%
8月31日	118.29	0.43%
9月30日	121.47	2.69%
10月31日	119.34	−1.76%
11月30日	128.02	7.27%
12月31日	129.79	1.38%
2015年 1月31日	126.51	−2.52%
2月28日	131.05	3.58%
3月31日	131.33	0.22%
3ヶ月変化率		1.19%
6ヶ月変化率		8.11%
1年変化率		15.28%
3年変化率		45.27%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

フィデリティ・バランス・ファンドの基本情報

【運用会社】フィデリティ投信
【運用対象】日本を含む世界各国の株式、債券、短期金融商品
【ベンチマーク】複合インデックス（円ベース）
- TOPIX（配当金込）（25%）
- MSCIワールド・インデックス（除く日本／税引前配当金込）（25%）
- シティ日本国債インデックス（15%）
- シティ世界国債インデックス（除く日本）（10%）
- シティ世界マネーマーケット・インデックス1ヶ月ユーロ預金インデックス（円セクター）（15%）
- シティ米短期国債インデックス1ヶ月米国債インデックス（10%）

【投資の基本姿勢】
①資産配分については、複合ベンチマークの配分を中心とした緩やかな調整を行います。
②株式部分については、個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。
③株式以外の部分については、安定性を重視した運用を行います。
④個別企業分析にあたっては、フィデリティ・グループの日本および世界主要金融拠点のアナリストによる企業調査結果を活かし、現地ポートフォリオ・マネージャーによる「ボトム・アップ・アプローチ」を重視した運用を行います。
⑤原則として外貨建資産の為替ヘッジは行いません。

運用状況

■資産別組入状況（2015.3末現在）

	構成比
日本株式	27.7%
外国株式	28.8%
北米	17.4%
欧州	9.4%
その他	2.0%
円建債券	24.3%
外貨建債券（含 債券型投信3.0%）	9.5%
円建短期金融商品*	－
外貨建短期金融商品*	7.3%
現金等	2.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
＊短期金融商品には残存期間1年未満の債券を含みます。株式には投資証券、リート、ワラントを含みます。

■株式組入上位５銘柄（2015.3末現在）

	銘柄名	国名	業種	構成比
1	東レ	日本	繊維製品	1.2%
2	本田技研工業	日本	輸送用機器	1.2%
3	日立製作所	日本	電気機器	1.1%
4	ブリヂストン	日本	ゴム製品	1.0%
5	ソフトバンク	日本	情報・通信業	1.0%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■通貨別組入状況（2015.3末現在）

通貨	構成比
日本円	52.4%
米ドル	32.0%
ユーロ	8.8%
英ポンド	2.4%
その他	4.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■債券組入上位５銘柄（2015.3末現在）

	銘柄名	国名	構成比
1	第345回 2年国債 0.1% 2016/10/15	日本	10.0%
2	第312回 10年国債 1.2% 2020/12/20	日本	9.9%
3	フィデリティ・ファンズ－USドル・ボンド・ファンド	ルクセンブルグ	3.0%
4	第140回 20年国債 1.7% 2032/09/20	日本	2.2%
5	イタリア国債 2.15% 2021/12/15	イタリア	1.8%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■銘柄数　355

（2015.3末現在）

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

米ドル・マネーMA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2003年4月22日
【資産分類】短期金融商品
【運用方針】
短期の市場性を有する有価証券および金融市場証券に分散投資し、米ドル・ベースでの元本、流動性および最大限の収益の確保を追求することを目指します。
【投資対象となる投資信託】
ブラックロック・グローバル・インベストメント・シリーズ
ー スーパー・マネー・マーケット･ファンド

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	10	3.3%
有価証券等		
ブラックロック･グローバル･インベストメント･シリーズ ースーパー･マネー･マーケット･ファンド	292	96.7%
その他	ー	ー
資産合計	302	100.0%
負債合計	ー	ー
純資産総額	302	100.0%

■ユニットプライスの推移

（円／ドルの為替レートは、7ページに掲載しています）

	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	65.83	ー
2014年3月31日	78.73	0.78%
4月30日	78.40	−0.42%
5月31日	77.58	−1.04%
6月30日	77.25	−0.43%
7月31日	78.23	1.27%
8月31日	78.77	0.69%
9月30日	82.85	5.18%
10月31日	82.65	−0.24%
11月30日	89.03	7.72%
12月31日	90.58	1.74%
2015年 1月31日	88.48	−2.32%
2月28日	89.10	0.70%
3月31日	89.62	0.58%
3ヶ月変化率		−1.06%
6ヶ月変化率		8.17%
1年変化率		13.82%
3年変化率		36.12%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

ブラックロック･グローバル･インベストメント･シリーズー スーパー･マネー･マーケット･ファンドの基本情報

【運用会社】ブラックロック・ファイナンシャル・マネジメント・インク
【運用対象】短期金融商品（米ドル建て）
【ベンチマーク】特に定めない

運用状況

■ポートフォリオ構成（2015.3末現在）

	構成比
CP	75.0%
CD	19.7%
政府機関債	5.8%
短期社債	1.6%
現金等	−2.2%

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

マネー・プールA（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

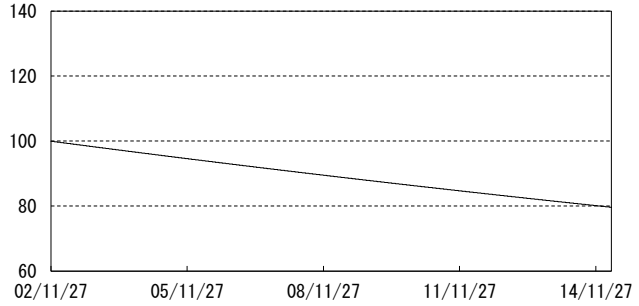
【特別勘定の設定日】2002年11月27日
【資産分類】短期金融商品
【運用方針】
円建ての預貯金、短期金融商品を中心に運用を行います。流動性に十分配慮し、リスクを抑えた安定的な運用を行います。
【投資対象】短期金融商品

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金　額	構成比
現預金	294	100.0%
有価証券等	－	－
その他	－	－
資産合計	294	100.0%
負債合計	－	－
純資産総額	294	100.0%

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	84.19	－
2014年3月31日	81.15	−0.16%
4月30日	81.02	−0.15%
5月31日	80.90	−0.16%
6月30日	80.77	−0.15%
7月31日	80.65	−0.16%
8月31日	80.52	−0.16%
9月30日	80.40	−0.15%
10月31日	80.28	−0.16%
11月30日	80.15	−0.15%
12月31日	80.03	−0.16%
2015年 1月31日	79.90	−0.16%
2月28日	79.79	−0.14%
3月31日	79.67	−0.16%
3ヶ月変化率		−0.45%
6ヶ月変化率		−0.91%
1年変化率		−1.82%
3年変化率		−5.37%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

※マーケットの先行きが著しく読みにくい局面等で資金を一時的に待避させる目的でご利用ください。

・当資料は、投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

MEMO

投資リスクについて

この商品は、将来受け取る年金額、解約払戻金額、死亡保険金額等が特別勘定の運用実績に基づいて増減するしくみの生命保険です。特別勘定は投資信託を通じて国内外の株式・債券等に投資されますので、この商品には価格変動リスク・為替変動リスク・信用リスク・金利変動リスク等の投資リスクがあります。そのため、株価や債券価格の下落・為替の変動等により、年金、解約払戻金等のお受け取り金額が、お支払いいただいた保険料の合計額を下回る可能性があります。

ご負担いただく費用について

■運用期間中の費用（すべてのご契約者にご負担いただく費用）

項　目	費　用
保険関係費用（保険契約管理費）	特別勘定の純資産総額に対して年率1.84%
資産運用関係費用* （資産運用管理費）	特別勘定の投資対象となる投資信託の純資産総額に対して上限年率1.8144%（税込）程度 各特別勘定により異なります。詳しくは、P.3「特別勘定の内容」をご覧ください。

■お取引の内容による費用（特定の取引のご契約者にご負担いただく費用）

項　目	適　用	費　用
積立金移転費用	1保険年度12回を超える積立金の移転の際	1保険年度に12回までの移転…無料 1保険年度に12回を超える移転…1回につき1,000円
契約者貸付利息	契約者貸付を受けたとき	貸付金額に対して年率1.84%
解約控除	解約するとき	積立金額に対して7%～2%（経過年数に応じて）
	減額するとき	減額に相当する積立金額に対して7%～2%（経過年数に応じて）

■年金支払期間中の費用（将来、以下の内容が変更になることがあります）

●保証期間付終身年金、確定年金の場合

項　目	適　用	費　用
保険関係費用（年金管理費）	当保険の維持管理等に必要な費用	年金額に対して1.0%以内 （毎年の年金支払日に責任準備金から控除します）

●特別勘定年金の場合

項　目	適　用	費　用
保険関係費用 （年金管理費）	特別勘定年金の維持管理等に必要な費用（基本保険金額を最低保証するための費用および災害死亡保険金などの費用を除きます）	特別勘定の純資産総額に対して年率1.17%
資産運用関係費用* （資産運用管理費）	保険関係費用（年金管理費）以外で、特別勘定の運用に係わる費用として支払われます。	特別勘定の投資対象となる投資信託の純資産総額に対して上限年率1.8144%（税込）程度 各特別勘定により異なります。 詳しくは、P.3の「特別勘定の内容」をご覧ください。

■ご負担いただく費用の合計額について

この商品にかかる費用の合計額は、上記「保険関係費用」、「資産運用関係費用」の合計額となります（ただし、一定期間内の解約については「解約控除」、積立金の移転が1保険年度12回を超えた場合には「積立金移転費用」等が別途かかりますのでご注意ください）。

＊資産運用関係費用は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、監査報酬、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等がかかりますが、費用の発生前に金額や計算方法を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は投資信託の純資産総額より差し引かれます。したがって、ご契約者はこれらの費用を間接的に負担することになります。なお、資産運用関係費用は、運用手法の変更等により将来変更される可能性があります。

ご注意いただきたい事項

●「投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）」は東京海上日動あんしん生命保険株式会社を引受保険会社とする生命保険（変額個人年金保険）です。

●「投資型年金Ⅱ（新変額個人年金保険GF）」には投資リスクがあり、投資リスクはご契約者に帰属します。場合によっては将来お受け取りになる金額が、払込保険料総額を下回る可能性があります。

【募集代理店】

【引受保険会社】

東京海上日動あんしん生命保険株式会社

ホームページ http://www.tmn-anshin.co.jp

ご契約内容・各種手続きに関するお問い合わせ

0120-155-730

受付時間：月～金／9：00～17:00
（祝日および12月31日～1月3日は休業とさせていただきます。）